

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 単元構想および授業目標を明確にし、他者との対話や深い思考による豊かな表現力を育成するための、言語活動の充実
- 主体的に学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を育てることができるカリキュラム・マネジメントによる単元開発

高志小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 中川 齊史	特別支援コーディネーター
	教諭	教頭 曾我部悦嗣	岡田八重
		研修主任 後藤紀子	養護教諭 石田友起子

校長

中川 齊史

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能はある程度身につけており、与えられた課題にはまじめに取り組める。 ●語彙が増えてきて読み取りの速度は上がっているが、表現の場(書く・話す)では使いこなせていない。	・学習のふり返りや表現の場で、学んだ言葉や習得した語彙・モデル文を使用し、豊かに表現できる。	・ふり返りのてびきを活用して、ふり返りの内容の質的向上を図るとともに、共有し合う時間を設定する。 ・辞書引きや音読、視写を取り入れた読書活動を継続しながら、表現の場で模範となる児童の発言や文章をもとに使い方を指導していく。			

【各校の取組状況の把握について】

日々の情報交換によって取組状況を確認しながら、学期に1回以上行う授業公開や研究

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の考えを比較しながら見たり聞いたりすることができはじめ、つなげた発言が増えてきている。 ●根拠を示して意見を述べる児童は増えているが、意見を比べてまとめることはまだ十分ではない。	・自分の考えを根拠を示して表現したり、友達と考えを比較する際に「どのように似ている(違う)のか」等を考え、つながりのある発表をしたりすることができる。	・グループ活動やロイロノートの回答共有の際に、友達との考えや表現の違いに着目し、より具体的に比較したりまとめたりする指導を行う。 ・根拠を示す、比較する、まとめる、分類するなどの思考スキルを高めるために、シンキングツールを積極的に活用していく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○一人一台のパソコン活用により苦手な単元にも主体的に取り組んだり、教師とともに単元のゴールを設定することで先を見通して取り組んだりできる児童が増えている。 ●自分で課題や時間を作り出すことはまだできていない。	・自分で課題を発見して学習の流れを設定し、進んで計画的に学習に取り組むことができる。	・単元の初めに、子どもとともにゴールを設定し、そこまでの道筋を考えることで、学習課題の設定から児童が主体的にできるように指導する。 ・始めに計画したカリキュラム・マネジメントを随時見直ししながら、児童が主体的に取り組める体験・交流を多く取り入れた単元設定を行う。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

